1．科目名（単位数）	社会・集団・家族心理学（家族）　（2 単位）	3．科目番号	PSMP3360 EDPS3307
2．授業担当教員	岩月　敦		
4．授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係			
7．講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内（夫婦、親子、兄弟姉妹など）の心理構造、③家族療法の概要、④家族・集団及び文化が個人に及ぼす影響について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通じ、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。		
8．学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1.家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2.家族の発達とともに起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3.家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4.家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。 5.家族・集団・文化が相互作用的に個人に及ぼす影響を具体的に説明できるようになる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	1．授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。 2．事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行う。 3．指示された課題、レポート提出は必ず行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】　中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学―家族システムの発達と臨床的援助 第 2 版』有斐閣ブックス、2019。 【参考書・教材】　必要に応じて、随時提示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1．家族心理学の主要な理論に関する哲学的背景・歴史的背景を理解し、家族の発達過程を説明できるか。 2．家族療法の概念・理論を分かり易い言葉で具体的に説明ができ、問題解決法を提示することができるか。 3．家族・集団・文化が相互作用的に個人に及ぼす影響を具体的に説明できるか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度（ディスカッション、課題、発表）、日常の受講態度等を総合して評価する。 1　平常点（授業への積極的参加・日常の学習状況）　総合点の 50% 2　まとめの課題（期末試験・課題レポート・テスト）　総合点の 50%		
12. 受講生へのメッセージ	心理職という形でなくても、社会・集団・家族心理学（家族）の学びはヒトとして生きる上で有用なものとなるでしょう。そのためには、知的な意欲を持って（ほんのわずかでも授業のエッセンスを意図的に使い）授業の内外を過ごすこと（たとえば、自身や周囲の人、社会について家族という視点で考えてみること等）がより有効となります。自身の生きている日常で、自身の周囲や社会の出来事などについて、興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になると、自身にとって有意義な知が蓄積、構築されることにもなります。また、分野も超えて知的好奇心、探求心をますます増加させ、自身の知の発展および、こうした喜びを味わうという歓びの多い好循環の人生を生涯にわたって過ごすことが可能になります。 新たな情報・知識の大量獲得よりも、以下の学びのプロセスをたどることを第一義とする姿勢を求めます。 1） まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理する。 （きれいにまとめられるとは限りません） 2） 自身の無自覚な思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。 3） 必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。 これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。 ア）自分の考え（意見）を言語化し、伝える。 イ）心を開いて、頭を使って、他者（教員・他の学生）の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。 （自分の問題としても関与する） ウ）他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、頭の中では常に参加する。頭と心を使う。 エ）必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。 なお、遠隔授業の場合には画面オンを基本とする。		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。		

14. 授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション―受講契約と導入 （教科書「改訂にあたって」「はしがき」「目次」）	事前学習	家族心理学の領域で関心のあることと、授業への期待を自分なりに言語化、記述する。
		事後学習	家族心理学の学びがどう役に立つのか自分なりのイメージを言語化し、記述する。
第 2 回	家族システムの理論 （教科書第 1 章 pp. 1-18）	事前学習	「システム」というものについて、自分なりのイメージを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、家族システムに関して自身の考えを言語化、記述する。

第３回	家族理解のために鍵となる概念 （教科書第 2 章 pp. 19-34）	事前学習	家族や家族内の問題理解のために必要な視点について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、家族理解についての自身の考えがどう変わったかを言語化、記述する。
第４回	家族の発達 1：独身、若年成人期 （教科書第 3 章 pp. 35-54）	事前学習	独身の若年成人期とその家族の特徴について、自身の考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第５回	家族の発達 2：婚姻と家族 （教科書第 4 章 pp. 55-70）	事前学習	結婚によってできる家族の特徴と結婚の影響について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第６回	家族の発達 3：子どもの誕生、乳幼児の親として （教科書第 5 章 pp. 71-86）	事前学習	妊娠、出産、育児が家族に与える影響について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第７回	家族の発達 4： 子どもの成長（児童期、思春期・青年期）と家族 （教科書第 6-7 章 pp. 87-118）	事前学習	子の成長と親の人生それぞれの変遷と影響について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第８回	家族の発達 5：老年期と家族 （教科書第 8 章 pp. 119-142）	事前学習	老年期の本人と家族について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第９回	家族支援 1：家族療法、システミックアプローチ （教科書第 9 章 pp. 143-158、および第 14 章 pp. 229-246）	事前学習	家族療法と他派の心理療法の違い（自分なりのイメージでよい）を言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、家族療法について自分なりに整理し、記述する。
第１０回	家族支援 2：夫婦関係の危機と介入、離再婚 （教科書第 10 章 pp. 159-176）	事前学習	夫婦関係の危機とそれに対する対応や介入について、自身の考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第１１回	家族支援 3：育児、発達障害、児童虐待 （教科書第 11-12 章 pp. 177-214）	事前学習	育児の問題、発達障害の問題について、自身の考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第１２回	家族支援 4：災害、喪失等によるストレスとその対応 （教科書第 13 章 pp. 215-228）	事前学習	災害や喪失について、自身の考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化し、記述する。
第１３回	家族支援 5：コミュニケーション派家族療法 （ブリーフセラピー/ＭＲＩ）とＤＶ （教科書第 14 章 pp. 229-246、および第 9 章 pp. 143-158）	事前学習	コミュニケーションとは何か、改めて自分なりに考え、言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、家族療法について自分なりに整理し、記述する。
第１４回	女性、男性と家族 （教科書第 15-16 章 pp. 247-278）	事前学習	性役割と家族の問題について、自身の考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変わったのかを言語化し、記述する。
第１５回	これまでのふりかえりとまとめ （教科書全ページ）	事前学習	これまでのノートすべてをふり返り、自身の変化などを踏まえて学びや感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、今後に向けた自身の課題意識について言語化し、記述する。
期末試験			